

国語科学習指導案

日時 平成28年5月19日（木）第2校時

対象 3年2組（男子20名 女子19名 計39名）

指導者 教諭 川原武敏

1 単元名 学びをつなげる授業「考えを引き出そう」

2 単元設定の理由

(1) 教育的意義

現代社会は、国際化による異文化交流が進み、価値観も複雑化、多様化してきている。このような社会においては、あふれる情報や多様な価値観に翻弄され、物事の本質を見失いがちであり、アイデンティティの確立が難しくなっている。このような状況は中学生も例外ではなく、これまでに身に付けてきた力、知識や経験を基にして、自分の考えを構築するのではなく、語句や表現を吟味しないまま情報を安易に利用することによって、あたかも自分の考えであるかのように表現してしまう生徒も少なくない。

そこで、これまでの国語の学習における既習事項を関連付けながら、情報を集め表現する活動を通して、身に付けてきた知識や経験を生かしながら、課題を解決する力を身に付けさせたいと考えて本単元を設定した。

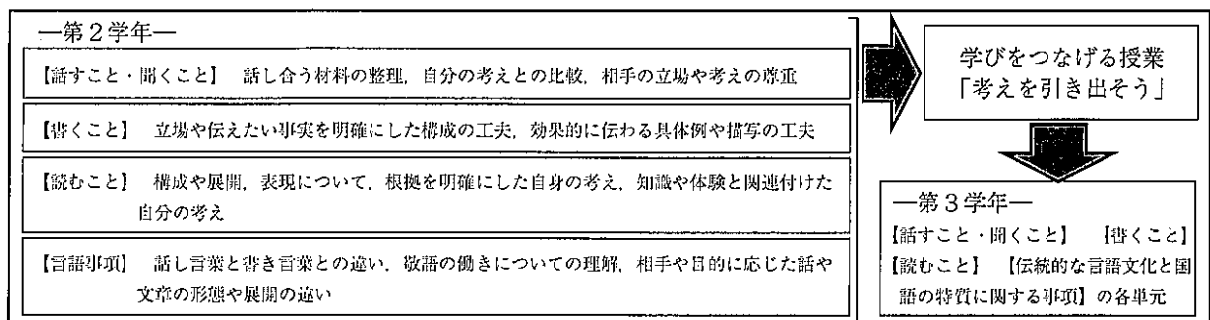
本単元「学びをつなげる授業『考えを引き出そう』」は、友だちの魅力を伝える紹介記事を作成する活動を行う。友だちの魅力を紹介記事で伝えるためには、国語の授業で学習したことを関連付けながら情報を集めたり、集めた情報を効果的に構成したりすることが必要となる。そのため、身に付けてきた知識や経験を生かしながら課題を解決するのに、有効な学習活動であると考え、設定した。

具体的には、まず、ペアで互いに取材を行い、紹介記事を作成する試行活動を行わせる。その後、新聞記事にある人物紹介と比較し、情報量の違いなどに着目させ、情報を得られる取材の仕方に課題があったことに気付かせて、記事作成に生かせる情報を得るための取材を工夫させることで、課題解決をめざさせる。その上で、国語の授業で学んだことを整理した「学習内容整理表」を用いたり、記事について意見交換したりしながら、改善すべき点に気付かせ、対象とする人物の魅力を引き出す取材の仕方や、取材によって得た情報を記事にする際の文章の構成等を練り直し、修正して課題を解決させる。

このように、友だちの魅力を伝える紹介記事を作成するという学習活動を通して、既習事項を生かしながら課題を解決する姿を育むことによって、課題を発見し、学びをつなげながら課題を解決する力を身につけることができるようになると思われる。

(2) 連関的意義

本単元は、これまで学習してきた単元と以下のような関連がある。



3 単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

- (1) これまで学習してきたことを関連付けながら、友達の魅力を引き出すための取材を行おうとしたり、得た情報を基によりよい紹介記事を作成しようとしていたりしている。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 魅力を引き出すための取材で得た情報を基に友達の紹介記事を作成する活動を通して、自分の考えを深めると共に、構成や表現を工夫して、読み手を引き付ける文章を書くことができる。(書くこと)
- (3) 取材メモから紹介記事を作成する活動を通して、論理の展開や表現の仕方を工夫し、説得力のある文章を書くことができる。(書くこと)
- (4) これまで学習してきたことを関連付けながら、友達の魅力が読み手に伝わる紹介記事を作成することができる。(「学びをつなげる」)

具体的には次に掲げる内容を重点的に指導する。

評価の観点	評価規準	学習指導要領との関連
国語への関心・意欲・態度	① これまで学習してきたことを関連付けながら、友達の魅力を引き出すための取材を行おうとしている。 ② 取材で得た情報を基に、友達の魅力が読み手に伝わる記事を作成しようとしている。	
書くこと	③ 友達への取材で得た情報を基に、文章の形態や構成を工夫して、友達の魅力が読み手に分かりやすく伝わる文章を書いている。 ④ 実際の新聞記事と自分の書いた記事とを比較することを通して、論理の展開の仕方や表現の仕方を修正し、読み手に伝わりやすい文章を書いている。	ア 課題設定や取材 イ 記述 ウ 推敲 エ 交流

本単元で生かすことが想定される他領域の2学年での既習事項として、主に以下が挙げられる。

領域等	既習事項
話すこと・聞くこと	⑤ 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。 ⑥ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。
読むこと	⑦ 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。 ⑧ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。 ⑨ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	⑩ 文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。 ⑪ 相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。

以上のことをふまえた上で、次の評価規準（ICEモデル）に即して、評価を行う。

I	C	E
○ 取材によって友達の情報を得た上で、分かりやすい構成や整った表現で、友達についての情報が伝わる記事を書いている。 (③、④の内容を踏まえた文章となっている。)	○ 取材によって友達の情報を詳しく得た上で、その情報を基に、構成や論理の展開、表現の仕方などを工夫して、友達の魅力が伝わる記事を書いている。 (⑤～⑪の事項を生かした文章となっている。)	○ 取材によって友達の情報を詳しく得た上で、その情報を基に、構成や論理の展開、表現の仕方等を工夫して、友達の魅力が伝わる記事を書いている。また、他の学習場面や生活場面において生かすことを想定できている。

4 単元の指導計画

(1) 単元設定の視点

ア 生徒の実態から

本学級の生徒には、次のような実態が見られる。

- ・ ほとんどの生徒が、学習して身に付けた力をその後の同じ領域の学習において生かそうとすることができ。しかし、例えば「読むこと」の領域で学習したことを「書くこと」の領域の学習に生かすなど、領域を関連させて学習内容を生かすことのできる生徒は少ない。
- ・ 学んだことを生かすことの重要性には気づけていても、どのような場面でどのように生かせばよいのかが具体的にイメージできない生徒がいる。

このような実態から、指導に当たっては、既習事項を整理させることによって、これまでの学習で身に付けてきた事柄を自覚させる。その上で、それらを具体的に関連付けて生かすことで、学習課題の解決に向かわせる。このように学習を展開することで、課題を解決するためにこれまでの「学び」を関連づけることが有用であることに気付かせ、学習で身に付けてきたことを生活場面に生かすことのできる力と態度を育む。

イ 本校の研究内容との関連から

(ア) 「学び」を関連付けさせるための工夫

① 「学び」を関連付けるための単元の設定

「学びをつなげる授業」として、友達を紹介する記事を作成する学習活動を単元の柱とする。相手の魅力を伝える紹介記事を作成する上で、「書くこと」における領域の学習事項を生かすだけでなく、友達に取材を行って考えや思いを引き出す過程や、得た情報をどのように表現すればより魅力が伝わるかを考える過程で、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」で学習した事項を効果的に生かす場面を設定することとする。

② 「学習内容整理表」の作成と活用

単元の初めでは、試行として、ペアとなった友達に簡単な取材を行い、その内容を基にした記事を書かせる。その後、モデルとなる新聞記事を取り上げ、自分の書いた文章との比較を行わせる。そして、自分の書いた記事を、友達の魅力がより伝わる記事とするために生かすことのできる既習事項を考えさせながら「学習内容整理表」を作成させる。この「学習内容整理表」を基に、友達へのインタビューや、記事の練り上げ等を行わせることで、これまでの「学び」を関連付けながら課題解決に向かわせることにする。

(イ) 「個の高まり」を的確に捉えるための工夫

① 「学びをつなげる授業」におけるルーブリックの設定と活用

「I C Eモデル」を基にしたルーブリックを設定する。紹介記事の作成においては、「書くこと」における指導事項を基に、「話すこと・聞くこと」「読むこと」等の既習事項を生かすことで、友だちの魅力が読み手に伝わる紹介記事を作成することができるようになると考え。そこで、「C」及び「E」の段階に「話すこと・聞くこと」「読むこと」等の既習事項を組み合わせて生かしている姿を位置付けることとした。

② 振り返りカードの活用

「振り返りカード」を書かせることで、生徒が既習事項を生かそうとしているか、前時までの学習を生かして質問や記事を作成しようとしているかを捉え、フィードバックを行ったり授業展開を修正したりすることとした。

(2) 単元の指導計画 (全11時間)

過程	主な学習活動	時間	指導に当たっての手立て	単元の目標との関連
導入	1 紹介記事を書く。 (1) ペアになり、互いに質問し合いながらメモを取る。 (2) メモを基に、紹介記事を作成する。 (3) 作成した記事をペアの友達と比較する。	1	<ul style="list-style-type: none"> 友だちの魅力を作成する記事を作成する学習活動を行うことを伝え、学習意欲を高めさせる。 取材したことをメモするためのワークシートを準備し、記事にするための材料を得る取材を互いに行わせる。 取材したことを書き記したメモを基に、実際に紹介記事を作成させる。 友達とどのような違いがあるか、比較させて感想をもたせる。 	「書くこと」
	2 作成した紹介記事と新聞記事を比較して、課題意識をもつ。	1	<ul style="list-style-type: none"> 新聞と比較する際の観点として、「この記事で何を知ることができるのか」を挙げて、どのような違いがあるか考えさせる。 「情報の多さが違う」という課題があることに気付かせることによって、必要な情報を得るために取材を工夫しなければならないことを確認させる。 情報量の少なさを感じさせた上で、目的意識をはっきりもたせることによって、質問の内容を考えなければならないことを理解させる。 比較して気付いたことについて感想を書かせ、今後の記事を作成するための課題意識をもたせる。 	
展開	3 課題を解決するために、紹介記事づくりに生かせることを「学習内容整理表」にまとめる。	1	<ul style="list-style-type: none"> 教材ごとにどのようなことを学んできたかを振り返らせるために、以下の項目等で「学習内容整理表」を作成させる。 <ul style="list-style-type: none"> 相手の立場や考えを尊重して聞く。 相手の反応を踏まえながら話す。 相手に分かりやすい語句を選択する。 	「学びをつなげる」
	4 「学習内容整理表」を生かして、課題解決の方法を考える。 (1) 取材の方法について。 (2) 魅力を引き出せる質問の内容について。	2	<ul style="list-style-type: none"> 「学習内容整理表」を基に、改めて取材の仕方を考え直させ、質問を精選させる。 これまでに身に付けた既習事項を、取材で生かす意識をもたせる。 1つの話題について掘り下げる質問を考え、精選するように補足する。 	
	5 課題解決を図る。 (1) 前時を振り返り、取材の仕方と質問内容を確認する。 (2) 代表ペアの取材の様子を観察する。 (3) 各自が作成した記事と試行記事の違いの理由を考える。 (4) 質問を見直し取材の準備をする。 (5) 見直した質問を基に、友達への取材を行う。	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 「学習内容整理表」に書いた内容を基に、取材内容を考え直した前時を振り返らせる。 代表ペアに取材を行わせる。 代表ペアが取材したことを基に、紹介記事を個々で作成させる。 今回の記事と、代表ペアが最初に試行した記事とを比較させ、既習事項を生かすことによる変容を感じさせる。 既習事項を生かしたことで、記事が改善されていることに気付かせる。 代表ペアを見て感じたことを基に、友達への取材を行わせる。 次時は、本時で作成した記事を基に、既習事項を生かして、記事を練り上げていく学習であることを伝える。 	
	6 記事を練り上げて完成する。 (1) 前時までで作成した記事を練り上げる。 ・構成の仕方 ・内容の精選 (2) 紹介記事を完成させる。	3	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに取材して、記事にしたことを基に、「学習内容整理表」に書かれた既習事項を生かして、記事を練り上げる。 記事の作成が進まない生徒については、「学習内容整理表」に書かれた各領域の学習内容を振り返らせ、記事を仕上げる際のヒントを与えて進めさせる。 	
終末	7 完成した紹介記事を交流して感想をもち、今後の学習につなげる。	1	<ul style="list-style-type: none"> 完成した紹介記事を互いに交流させ、「これまで学習してきたこと」ことが、取材や記事の練り上げに生かされたことに気付かせる。 今後の学習に意欲をもたせる。 	

5 本時の実際 (5/9)

(1) 指導目標

代表ペアの取材の様子を観察して作成した記事と試行段階の記事とを比較し、取材の仕方によって得られる情報の違いについて考える活動を通して、より良い情報の集め方について考えを深めて、友達の魅力を伝えることのできる文章を書くための情報を集めることができるようにする。具体的には、次のような姿を目指す。

十分達成されている	より良い取材の仕方について考えを深めたことによって、「学習内容整理表」を生かして質問や質問の流れを練り、友達の魅力が伝えることのできる文章を書くための詳細な情報を集めることができている。
おおむね達成されている	より良い取材の仕方について考えたことによって、「学習内容整理表」を生かして質問を練り、友達の魅力が伝えることのできる文章を書くための情報を集めることができている。
達成していない生徒への手立て	ペアの相手と相談させたり、指導者による助言を与えたりしながら、「学習内容整理表」を参考にして、相手の思いや考えや聞き出すことのできる質問を考えさせる。

(2) 目標行動 (G)

学習課題「どのような取材をすれば、友だちの魅力が伝わる記事を作成できるだろうか」を踏まえて、「振り返りカード」に以下のようにまとめ、発表することができる。

- ・ 一問一答のやりとりで終わらずに、相手の答えを受けて、相手の考えや思いをさらに深く聞き出すような質問を重ねて取材をすると、その人の思いや考えを伝えることのできる記事の材料が集められることが分かった。
- ・ 相手が質問に答えた内容をしっかりと捉え、一つのことに焦点を当てて更に深く聞き出していくと、友達の個性が答えの中に表れてきて、その人の魅力を伝える紹介記事の材料を集められることが分かった。
- ・ 質問を受ける側は、質問への答えを考えていく中で考えがまとまることのあるようなので、相手の答えを繰り返したり、確認したりしながら質問を進めると、記事づくりにつながる情報を詳細に得られることが分かった。

(3) 下位目標行動

- ① 取材で得た情報を、試行段階の取材メモと比較することによって、取材の仕方によって得た情報に違いが生じたことを確認することができる。
- ② 見直した質問を基に友達への取材を行い、得た情報をメモすることができる。
- ③ 取材の仕方によって、得られる情報に違いが生まれることを踏まえた上で、自分が考えた質問を再度見直し、友達の魅力を引き出すための取材の準備をすることができる。
- ④ 各自が作成した記事と、試行記事の違いが生じた理由を、取材の仕方に着目して、例えば次のように説明することができる。

- ・ 「あなたが〇〇を趣味にしているのはなぜですか」という、情報を取り出すための質問をしたことにより、その人が〇〇のどのような点に興味を持っているのかを深く聞き出すことができていた。
- ・ 「△△をするのが好きだということですが、△△をしているとどんな気持ちになりますか」という、相手の思考を促すための質問をしたことにより、相手の気持ちをより具体的に知ることができ、記事がより詳細で分かりやすいものになった。
- ・ 対談形式の説明文で学習したことを参考に、「ということは、□□と言ってもいいですか」という切り返しの質問をしたことで、相手が考えを整理できていて、その後のやりとりがよりスムーズに流れ、情報が豊富になった。

- ⑤ 各自が作成した記事を、代表ペアの試行段階の記事と比較し、その違いを、例えば以下のよう指摘することができる。

- ・ 試行段階の記事は、その人の表面的な情報しか伝わってこないが、今日の記事は、その人が普段どのようなことを考えたり感じたりして生活しているのかが伝わる記事になった。
- ・ 試行段階の記事は、情報がたくさんあるけれど一つ一つの内容は浅い感じがする。今日の記事は、一つの話題について掘り下げて書くことができ、その人の個性が伝わるような内容になった。

- ⑥ 代表ペアによる取材の様子を観察し、その取材によって得た情報を基に、友達を紹介する記事を作成することができる。
- ⑦ R 本時の学習の流れを確認し、学習の見通しをもつことができる。
- ⑧ R 学習課題「どのような取材をすれば、友だちの魅力が伝わる記事を作成できるだろうか」であることを確認することができる。
- ⑨ R 本時の学習目標が、「学習してきたことを生かして、友だちの魅力を引き出そう」であることを確認することができる。
- ⑩ R 前時までの学習を振り返ることができる。

(4) 本時の実際

時間	学習過程	指導上の留意点	評価活動
	スタート	<導入>	
2	前時までの学習を振り返る。 1 (⑨R)	<ul style="list-style-type: none"> 前時に、学んできたことを生かしながら、取材内容を考え直したことを確認させる。 「魅力を引き出す」ための工夫として、その魅力を情報として得るために、取材を考え直したことをおさえさせる。 	
3	学習目標と学習課題、本時の学習の流れを確認する。 2 (⑧R,⑦R,⑥R)	<展開> 【学習目標】 取材で友達の魅力を引き出し、よりよい紹介記事を作成しよう。 【学習課題】 どのような取材をすれば、友だちの魅力が伝わる記事を作成できるだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> 本時は、友達の魅力がより伝わる紹介記事を作成するため、友達の魅力につながる情報を得るために、取材を工夫する学習であることを確認させる。 	
10	代表生徒の取材を見ながら、取材メモをとる。 3 (⑤)	<ul style="list-style-type: none"> モデルとして代表ペアを抽出し、実際に取材の様子を見せながら、全体でワークシートに聞いたことをメモさせる。 3分程度で取材させる。 取材で得た情報を基に、記事を書かせる。 「常体」で書くように指示する。 	○ 友達の魅力が分かりやすく伝わる文章を書いている。 (観察・ワークシート)
5	「取材メモ」を基に、代表生徒の記事を書く。 4 (④)	<ul style="list-style-type: none"> モデルとなった代表ペアの試行記事を電子黒板等で全体に見せ、書いた作品と比較し、全体で考えさせる。 	
10	試行記事からの変容を確認し、その理由を考える。 5 (③,②)	<ul style="list-style-type: none"> 改善された箇所と、なぜ改善したのかを考えさせ、数名の発表を行い、取材に工夫を加えたことを挙げさせる。 自分の記事に、試行からの変容が見られるか確認させる。 具体的にどのように変容しているか具体的に考えさせる。 自身の考えと友達の考えを共有し、既習事項を生かすことが変容につながったことを感じさせる。 	
10		<ul style="list-style-type: none"> 変容した理由として、友達同様、「取材に工夫を加えた」ことに加えて、「学習内容整理表」を振り返り、「工夫の仕方を学んできていて、それを生かすことができていた」ことに気付かせる。 どのような既習事項を生かすことで、どのような変容が見られたかを説明させる。 	○ 既習事項を生かし、友達の魅力が伝わる取材をしている。 (観察・ワークシート・振り返りカード)
5	自分の取材内容と取材の工夫を考え、ペアで取材を行う。 6 (①)	<達成していない生徒への手立て> <ul style="list-style-type: none"> 「学習内容整理表」を確認させるとともに、試行段階の取材内容と今回の取材内容を示したり、ペアで試行からの変容を確認させたりして、その違いと試行からの具体的な変容に気付かせる。 <達成している生徒への手立て> <ul style="list-style-type: none"> どのような既習事項を生かすことで、どのような変容が見られたかについて、具体的に考えさせたり、達成していない生徒に向けてアドバイスさせたりさせる。 	
3	本時のまとめをして、振り返りカードを記入する。 7	<ul style="list-style-type: none"> 前回の取材の課題に気づき、改めて工夫した情報収集をしながら、自分自身の課題解決を考えさせる。 	
2	次時の学習の見通しをもつ。 8	<終末> <ul style="list-style-type: none"> 魅力を引き出すために、質問内容や質問方法を工夫したことで、友達の魅力がより伝わる紹介記事となっているかを確認させる。 「振り返りカード」に今日の授業を受けて大切だと思ったことや気付いたことを記入させる。 	
	ゴール	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、より伝わる記事を書くための工夫を「学習内容整理表」を生かして考えることを確認させる。 	